

中朝国境地域にみる協力と緊張

～900 キロの国道を 4 日間走って～

佐渡友 哲

1. はじめに

中朝国境は、東側辺境では、ロシアとも国境を接する図們江によって隔てられ、それより西側では、長白山を源流とする鴨緑江によって隔てられている。その中朝国境地域を、東端の防川から西端の都市、丹東市まで、2つの川（江）に沿って、およそ900キロの国道を4日間で走ってきた。途中、数百キロにわたる鴨緑江に沿った国道では、数十メートル先の対岸で生活している北朝鮮の農民たちや仕事中の兵士の姿も観察することができた。そして特に、北朝鮮の町と接する長白市と丹東市では、対岸にあるそれぞれ恵山市、新義州市を定点観測できた。中朝国境地域には、中国側から対岸の北朝鮮の町の状況を観察できる、いわゆる「ウォッチング・ポイント」が何か所かある。本報告は、こうした現場の観察を含め、中国側の開発区のスタッフ、研究者、そして地元のジャーナリストなどに面接調査をした成果をまとめたものである。

1 日目	①防川（中朝露三国国境地帯）、②琿春市（国際開発区訪問、中露国境、税関） ③長嶺子（中露国境、税関）、④図們市（中朝国境橋、税関）
2 日目	⑤ 龍井市の三合鎮（中朝国境、税関）、⑥和龍市の崇仙郷（中朝国境、税関） 午後は長白市へ向かう
3 日目	⑦長白市（対岸北朝鮮の恵山市を望む） 集安市、通化市を經由して丹東へ向かう
4 日目	⑧丹東市（地元記者への聞き取り調査、中朝国境橋の視察、対岸の新義州市を望む）

2. 中朝露国境地域の現状.

中朝国境地域の調査は、ロシア国境に近い東側の辺境から始めた。日程表にあるように、1日目は、ロシアと北朝鮮が見渡せる防川から琿春市、図們市へと内陸へ足を運んだ。防川の展望台からの眺めは、地の果てを思わせる広大な絶景ではあるが、中朝露の国境が接し、ヒトやモノが往来する地域と考えれば、見る目は違ってくる。防川から図們江に沿って北上すること約1時間のところに、その証拠がある。琿春国際開発区である。

この国際開発区の広大な土地が、ロシアや北朝鮮との貿易で、石炭などの資源、軽工業製品、水産物などの物流の拠点になっている。私たちが訪れた国際開発区事務局の新しく巨大なビルを見ただけでも、貿易に対する中国の意気込みが感じられる。ここで聞き取り

調査に応じて下さった副局長からは、以下のような情報を得た。

琿春国際開発区からロシアのザルビノへは鉄道があり、軽工業製品、果物、野菜、水産物など、年間約 30 万トンが輸出されている。ロシアからは木材、石油、水産物など年間 80 万トンが輸入されている。琿春には毎年約 17 万人のロシア人が入国している。このロシア人は、観光目的ではなく主に「担ぎ屋」を商売とした人々である。彼らは中国製品だけではなく、大連、青島、丹東などから入った韓国製の家電製品、衣類、軽工業製品を買い付け、ロシアへ運んでいく。一人の担ぎ屋が運搬できる荷物量は、公式的には 35 キロまでであるが、実際には 50 キロまで黙認されている。ロシアの会社が、担ぎ屋を雇用して商売をしている事例もある。

琿春国際開発区から北朝鮮へは、日用品や軽工業製品など、年間約 60 万トンが輸出されている。北朝鮮からは、年間約 80 万トンの石炭が輸入されている。この開発区から北朝鮮の羅先工業地域へは鉄道があり、1 日約 500 両の貨車が出ている。ここから北朝鮮のウォンジョンリの間には、新しい税関が建立される予定である。また琿春国際開発区には韓国や日本の企業も多く進出しているほか、北朝鮮からはおよそ 2400 人の労働者が来て働いている。彼らは水産加工や縫製関連の仕事に従事しているが、北朝鮮労働者を雇用できるのは中国企業だけである。北朝鮮労働者は主に女性で、宿舍が与えられ、許される滞在期間は 3 年間で、2 年間の延長が可能である。

3. 丹東における中朝関係

丹東は遼寧省の南東部にあり、北朝鮮と国境を接した中国の都市としては、最大級の辺境都市である。丹東の人口は約 240 万人、丹東市街地の居住者は約 70 万人である。市内に住む朝鮮族は約 18,000 人で、鴨緑江を挟んだ対岸にある北朝鮮の新義州市では約 40 万人が生活している。丹東駅から数百メートル南には鴨緑江があり、新義州市へ向かう中朝友誼橋（全長 946m）が架かっている。この橋には鉄道と道路が敷かれていて、中朝国境を跨ぐ物流と人流の中心的役割を果たしている。中朝貿易の 7 割が丹東を通過するといわれていることから、この橋はその象徴ともなっている。丹東の税関では毎朝、この中朝友誼橋を通して北朝鮮へ貨物を運ぶ通関待ちのトラックが列をなす。その物流の増大を見越して、この橋の下流には最新の吊り橋型の巨大橋が完成した。この新鴨緑江大橋は現在の 4 倍もの交通量に対応可能できるという。この地域には「丹東新区」と呼ばれる大規模な経済開発区が建設中である。

もう一つ注目すべきことは、中国から北朝鮮への石油輸出である。北朝鮮は石油のほぼ全量を中国からの輸入に頼っている。その多くが、ここ丹東の山岳部にある巨大な原油貯蔵施設から鴨緑江の地下を通過して北朝鮮の原油精製施設（平安北道）に至る全長約 30 キロのパイプラインに依存している。北朝鮮にとってこのパイプラインが「命綱」であることは間違いのないであろう。私たちはこの丹東市で、地元紙「遼寧日報」の前丹東支局長に

面談することができた。その内容は下記のとおりである。

ここでは、毎年10億ドル規模の中朝貿易が行われている。北朝鮮から丹東へは、石炭、胡麻、漢方薬剤、蕨などが輸入されている。丹東の朝鮮族は、北朝鮮との貿易に従事する人がほとんどであり、この貿易のために朝鮮族の人口は増えている。貿易の形態は、政府が介入した民間人貿易である。韓国から商売を目的として丹東に滞在する人は、約6,700人である。最近、韓国人に対する中国入国ビザ発給が厳しくなった。韓国人は北朝鮮で委託加工式の生産をしていたが、韓国政府による対北朝鮮経済制裁措置（5.24措置）により、ほとんどが中止になった。丹東から中国人が北朝鮮観光に出かける。新義州市への日帰り観光をはじめ、東海滝への2日間観光、平壤・板門店への3日間観光などがある。毎日、約2,300人が北朝鮮へ観光に出かけていることになる。丹東地域への北朝鮮からの脱北者はあまりいない。その理由として、新義州市の経済事情が良いということが考えられる。20年前、鴨緑江に廃船を利用したカジノ事業が計画されたが、失敗に終わっている。

4. 調査のまとめ

中朝国境地域を現地調査して、そこには国境を管理する国家の政策、そこから経済発展に結び付けようとする発展計画、国境を超えてビジネスを展開する民間のエネルギー、国境を観光の目玉にしようとする国や民間の思い、など様々な視点が見えてきた。本報告では、①格差、②国境線、③開発区、④観光、⑤労働移動、⑥政治的影響という視点から分析したいと思う。第1に、鴨緑江を挟んで兩岸に2つの町が一望できるところでは、両者の発展の格差が歴然としていることである。たとえば長白市と恵山市、丹東市と新義州市をそれぞれ比較すると、かつて1970年頃までは北朝鮮側が経済的に豊かであったが、今日では中国側がその規模、産業、インフラなどで圧倒的な経済力を誇るようになっているということである。北朝鮮側の町では古い建物がそのまま残り、発展が止まっているような印象を受けるが、中国側の町では、たとえば丹東にみられるように、高層アパートと高級ホテルが乱立して、対岸からはまるで「発展の見本市」のように見えるであろう。兩岸の都市の歴然とした経済格差は隠しようがなく、両国民も訪れる観光客もみな事実として感じ取るのである。

第2に、数百キロに及ぶ鴨緑江が中朝の国境線となる長白市から丹東市までは、中国側に部分的に鉄条網を見ることができたが、ほとんどが柵や検問所のない自然が国境線そのものだったことである。私たちにも対岸の農民が川で洗濯をしている様子が見て取れ、川を渡れば容易に行き来ができる状況であることが理解できた。現地で聞いた最近の情報によると、数か月前に北朝鮮の兵隊が数名、川を渡り中国にやってきて中国人宅を襲い、殺人事件にもなったという。その結果、中国側の警戒が厳しくなり、道路に防犯カメラが取り付けられるようになったとも聞いた。ここから見える北朝鮮の農村は、人口の少ない遙

か辺境の地である。この地域にはヒトやモノの交流はなく、中朝両政府にとっても開発を期待するところではない。また脱北者のルートとして注目すべきところでもないようである。中朝国境地域は、壁が築かれたりお互いの兵隊が厳しく対峙するところではなく、その多くがこのような自然環境を保持しているのである。

第 3 に、ヒトやモノが行き来し、将来の経済開発拠点と見込まれたところでは、中国政府が重点的に資金と技術を注ぎ込むということである。私たちが訪問した琿春国際開発区は、ロシア、北朝鮮、日本との将来における貿易と経済・技術交流を見据えた一大拠点である。図們江にある琿春の港からは大型船で日本海/東海に貨物を運ぶことはできない。すぐ近くのロシアのポシェットとザルビノに鉄道で貨物を運んでから日本の港へ行くことになる。物流の専門家の間では、図們江の川底を深く改修して琿春港から直接、新潟港や境港へ貨物を出す計画が議論されている。もしこれが実現すれば、これまで大連港から輸出していた中国東北部の生産物は、琿春から近いルートを通して日本にやってくる。距離と時間を短縮した日本海/東海の物流革命である。ただ残念ながらこの構想は今日ではほとんど話題になっていないことである。巨額な資金が必要となるからであろう。中国政府が国境地域に重点的に資金と技術を注ぎ込む事例としては他に、対岸の恵山市をにらみ新しい税関と巨大な物産展会場が造られている長白口岸国際商貿城、そして、丹東市に建設中の新鴨緑江大橋に象徴される「丹東新区」と呼ばれる経済開発区である。

第 4 に、中国の辺境にある国境では、魅力的な観光スポットを人工的に作り上げ集客を狙う傾向があることである。防川では石造りの展望台がありロシアと北朝鮮が一望にできた。丹東ではイタリアのベニスの雰囲気をも真似した高級ホテルがオープンしていた。頓挫したが丹東にはカジノ構想もあったという。以前より中国南部の雲南省とラオスの国境地域には中国資本のカジノが何軒もあるし、空港並みのきれいな免税店があることも珍しくない。私たちが現地を確認できたことは、いままで誰も寄りつかなかった辺境の地に、乗用車や観光バスで人々がやってくることである。これは高速道路が発達し、モータリゼーションの時代になったという理由だけではない。国境地域が安定していれば、経済発展の可能性と隣国との将来の WIN-WIN 関係を見越して先行投資をしているということではないだろうか。いま、中国では今、辺境に熱い視線が向けられているのである。

第 5 に、国境地域におけるヒトの往来と労働移動に注目することである。国境地域での人の移動はダイナミックである。丹東では、毎日 2000 人以上の中国人が日帰りや 3 日のツアーなどで北朝鮮を訪れているし、6000 人以上の韓国人ビジネスマンが滞在していることはすでに述べたとおりである。中露国境近くの中国側のいくつかの町からは、ロシアのウラジオストクやボグラニチヌイなどへ国際定期バスが運行されている。琿春だけでも毎年約 17 万人のロシア人が入国していることを現地で聞いた。延吉や丹東などの主要都市には、北朝鮮女性らがショーを披露するレストランがある。彼女らは数人でバンドを組み、歌や踊りを披露しサービス精神もあるように見える。晩には興業をし、昼は同じレストランでウェイトレスとして働く。店に入るだけで、彼女たちが北朝鮮で訓練され選ばれたプロた

ちであることが感じ取れる。こうした店は、街中でひととき目立ち、他の中国のレストランと比較してもきれいで洗練されていてやや高価である。国境地域の労働移動の特徴は、その地域だけに許可された制度があることである。

第 6 に、こうした国境地域にみられる独特な環境に政治的影響がどのように及んでいるのか、あるいは地域の活動が 2 国間、多国間関係にどのような影響を与えているのかに注目することである。国境地域の状況は政府の政策によって大きく左右されることは確かである。しかしまた同時に、国境地域特有のヒトとモノの交流が、政府の政策に影響を与えたり、国民国家とは異なった地域のアイデンティティや新たな地域空間を形成することはありえないのか。いま、政治学や国際関係論などの研究者にとって、こうした視点から国民国家を見直そうとする越境地域 (cross-border region) や下位地域主義 (sub-regionalism) の研究が注目されている。

最後に、中朝国境地域には他の下位地域圏にはない複雑な国際環境を念頭に置かなければならない。北朝鮮の核兵器やミサイルなどの安全保障問題や不安定な中朝韓日の相互関係などが直接、この下位地域圏に影響を及ぼしてしまうのである。今回の現地調査で新たに認識できたことは、人の集住はまだ希薄ではあるが、中朝国境の東側辺境にある中朝露が形成する下位地域圏の可能性である。これまでは図們江開発プロジェクトとして国連も関わった多国間協力の場ではあったが、開発区、観光、労働移動をキーワードに更なる研究ができるのではないかという印象であった。